

船舶事故調査報告書

令和6年6月26日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突（岸壁）
発生日時	令和5年5月24日 09時00分ごろ
発生場所	北海道苫小牧港西港 苫小牧港東外防波堤灯台から真方位056° 3.9海里付近 （概位 北緯42° 39.1′ 東経141° 41.6′）
事故の概要	港湾業務艇はやぶさは、測量作業中、岸壁に衝突した。
事故調査の経過	令和5年6月1日、主管調査官（函館事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	港湾業務艇 はやぶさ、19トン
船舶番号、船舶所有者等	235-34848北海道、国土交通省
乗組員等に関する情報	船長、一級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	本船 右舷船尾部ハンドレールが折損 岸壁 なし
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北北西、風力 3、視界 良好 海象：波高 約0.2m
事故の経過	<p>本船は、船長ほか1人が乗り組み、北海道開発局職員等3人を乗せ、‘苫小牧港西港^{ゆうふつ}頭前面海域での深淺測量’（以下「本件測量」という。）を行う目的で、同港第1船だまりを出航し、同ふ頭1号岸壁（以下「1号岸壁」という。）に到着した。</p> <p>船長は、操舵室右舷側の操縦席に腰を掛け、手動操舵で操船に当たり、1号岸壁が近く、GPSプロッターでの船位確認が困難であったので、目測で本船と同岸壁との距離を約5mとし、本件測量を開始した。</p> <p>船長は、約5ノットの対地速力で、1号岸壁に沿って東北東進しながら本件測量を行っていたところ、同岸壁に著しく接近していることに気付き、急いで左転したものの、本船の右舷船尾部が同岸壁に衝突した。</p> <p>船長は、操縦席にある測量データが表示されるモニター（以下「本件モニター」という。）で測量状況を確認することに意識を集中していたので、風によって1号岸壁方向に圧流されていることに気付くのが遅れたのではないかと本事故後に思った。</p>
分析	本船は、北北西風が吹く状況下、本件測量を行いながら東北東進中、船長が、本件モニターで測量状況を確認することに意識を集中して航行を続けたことから、1号岸壁方向に圧流されていることに気付くのが遅れ、同岸壁に衝突したものと考えられる。

原因	本事故は、本船が、北北西風が吹く状況下、本件測量を行いながら東北東進中、船長が、本件モニターで測量状況を確認することに意識を集中して航行を続けたため、1号岸壁方向に圧流されていることに気付くのが遅れ、同岸壁に衝突したものと考えられる。
再発防止策	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 <ul style="list-style-type: none">・ 船長は、岸壁の近くを航行する場合、風潮流の影響等を考慮し、他の作業に意識を集中し過ぎることなく、岸壁との安全な距離を保って航行すること。